

# 履歴書

(2010年10月19日現在)

氏名： 塩路悦朗（しおじえつろう）  
所属・職名： 一橋大学 大学院 経済学研究科 教授  
連絡先： 〒186-8601 東京都国立市中 2-1  
電子メール： shioji “AT” econ.hit-u.ac.jp  
生年月日： 1965年3月8日

## 1. 学歴

1987年3月 東京大学経済学部卒  
1987年4月 東京大学大学院経済学研究科第二種博士課程入学  
1990年10月 イェール大学(米国)大学院経済学部博士課程入学  
1995年5月 イェール大学(米国)大学院経済学部博士課程修了  
(Ph.D. in Economics)

## 2. 職歴・研究歴

1994年9月 ポンペウ・ファブラ大学(スペイン)経済学部助教授  
1997年10月 横浜国立大学経済学部助教授  
2000年10月 デューク大学(アメリカ)において在外研究（客員研究員、2001年4月まで）  
2002年4月 横浜国立大学 大学院 国際社会科学研究科 助教授  
2006年4月 一橋大学 大学院 経済学研究科 助教授  
2007年4月 同 准教授  
2007年10月 同 教授

## 3. 学内教育活動

中級マクロ経済学、金融経済論1、演習、大学院演習

## 4. 主な研究テーマ

マクロ経済学（時系列分析手法を応用した日本経済の実証分析、新しい開放マクロ経済学、マイクロデータによる貨幣需要と資産選択の分析）

## 5. 研究活動

### A. 業績

#### (a) 著書・編著

- 『経済動向指標の再検討』（経済分析 政策研究の視点シリーズ 19）、美添 泰人・大平純彦・塩路悦朗・勝浦正樹・元山斉・高瀬浩二・大西俊郎・澤田章・青木周平・北岡智哉・芦沢理恵・前島秀人著、内閣府経済社会総合研究所、2001年3月、208 ページ.
- 『景気指標の新しい動向』（経済分析第 166 号）、美添 泰人・大平 純彦・塩路 悦朗・勝浦 正樹・元山 斉・大西 俊郎・沢田 章・木村 順治・児玉 泰明著、内閣府経済社会総合研究所、2003 年 2 月、286 ページ.

#### (b) 論文(査読つき論文にはレ)

- 「戦前日本経済のマクロ分析」(吉川洋氏との共著)、『経済理論への歴史的パースペクティブ』吉川洋・岡崎哲二編、東京大学出版会、第 6 章、1990 年、153-180 ページ.
- *Regional Growth and Migration*, Ph.D. thesis, Yale University, 1995.
- “Convergence in Output per Capita and Public Capital in Japan: Evidence from the Corrected LSDV Method”, 『エコノミア』第 49 巻、第 3・4 号、1999 年 2 月、33-48.
- 「日本経済の長期的展望と社会資本」、『ESP』No. 325, 1999 年 5 月、23-27.
- ✓ "Identifying Monetary Policy Shocks in Japan", [\*Journal of the Japanese and International Economies\*](#) 14, 22-42 (2000), Academic Press.

- 「日本の地域所得の収束と社会資本」、『循環と成長のマクロ経済学』吉川洋・大瀧雅之編、東京大学出版会、第8章、2000年。
- 「社会資本の生産性効果に非線形性はあるか?」、『エコノミック・リサーチ』No. 9、2000年3月、35-41。
- 「クロス・カントリー・データによる経済成長の分析：サーベイ」、『フィナンシャル・レビュー』、No. 54、2000年、42-67ページ。
- ✓ "Composition Effect of Migration and Regional Growth in Japan", *Journal of the Japanese and International Economies* 15, 29-49 (2001), Academic Press.
- ✓ "Public Capital and Economic Growth: a Convergence Approach", *Journal of Economic Growth* 6, 205-227 (2001), Kluwer Publishers.
- 「経済成長の源泉としての社会資本の役割は終わったか」、『社会科学研究』第52巻4号、2001年。
- ✓ "Initial Values and Income Convergence: do "the Poor Stay Poor"?" *Review of Economics and Statistics* 86(1), 444-446 (2004)
- 「日本における技術的ショックと総労働時間：新しいVARアプローチによる分析」(R. Anton Braun氏との共著)、『経済研究』(一橋大学)vol. 55、No. 4、2004年10月、289-298ページ。
- ✓ "Term Structure of Interest Rates and Monetary Policy in Japan", joint with R. Anton Braun, *Journal of Money, Credit, and Banking* 38(1), 141-162 (2006), also CIRJE Discussion Paper CF-252, <http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/dp/2003/2003cf252.pdf>.
- 「金融不安・低金利と通貨需要：「家計の金融資産に関する世論調査」を用いた分析」藤木裕氏との共著、『金融研究』24(4)、1-50、2005年12月。
- 「インボイス通貨とバスケット・ペッグ制度」、福田慎一・小川英治編『国際金融システムの制度設計：通貨危機後の東アジアへの教訓』東京大学出版会、2006年2月。
- "Estimating urban agglomeration economies for Japanese metropolitan areas: is Tokyo too large? joint with Yoshitsugu Kanemoto, Toru Kitagawa and Hiroshi Saito, forthcoming as Chapter 16 of *GIS-based Studies in the Humanities and Social Sciences*, Taylor & Francis Group, LLC (edited by Atsuyuki Okabe), January 2006.

[http://www.e.u-tokyo.ac.jp/%7Ekanemoto/MEA/Agglomeration\\_CSIS7.pdf](http://www.e.u-tokyo.ac.jp/%7Ekanemoto/MEA/Agglomeration_CSIS7.pdf).

- ✓ “Monetary policy and economic activity in Japan, Korea and the United States”, joint with R. Anton Braun, *Seoul Journal of Economics* 19(1), 111-146 (2006), also CIRJE Discussion Paper CF-251,  
<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/dp/2003/2003cf251.pdf>.
- ✓ “Invoicing currency and the optimal basket peg for East Asia: analysis using a new open economy macroeconomic model”, *Journal of the Japanese and International Economies* 20(4), 569-589, (2006).
- 「投資ショックと日本の景気変動」、(R. Anton Braun 氏との共著)、林文夫編『経済停滞の原因と制度：経済制度の実証分析と設計 第1巻』、勁草書房、2007年1月。
- ✓ “Investment specific technological changes in Japan”, joint with R. Anton Braun, forthcoming in *Seoul Journal of Economics* 20(1), 165-200 (2007).
- 「東アジア内の戦略的相互依存とバスケット通貨制度：人民元改革と東アジア通貨の将来」、伊藤隆敏・小川英治・清水順子編『東アジア通貨バスケットの経済分析』東洋経済新報社、133-154、2007年。
- 「マクロ経済学は失われた10年から何を学んだか」チャールズ・ユウジ・ホリオカ・伊藤隆敏・岩本康志・大竹文夫・塩路悦朗・林文夫、市村他編『現代経済学の潮流 2007』東洋経済新報社、217-261、2007年9月。
- 「社会資本の生産性効果の非線形性」大瀧雅之編『平成長期不況：政治経済学のアプローチ』東京大学出版会、181-206、2008年7月。
- 「生産性変動と1990年代以降の日本経済」深尾京司編『バブル／デフレ期の日本経済と経済政策：マクロ経済と産業構造』慶應義塾大学出版会、359-386、2009年。
- ✓ 「類別名目実効為替レート指標の構築とパススルーの再検証」(内野泰助との共著) 『経済研究』61(1)、47-67、2010年。
- ✓ "Pass-Through of Oil Prices to Japanese Domestic Prices"(joint with Taisuke Uchino), in Takatoshi Ito and Andrew Rose eds., *Commodity Prices and Markets*, University of Chicago Press, 155-189, (2010) (to be published).

- 「銀行行動と貨幣乗数の低下」、小川英治・福田慎一編『現代金融経済の潮流（仮）』東大出版会、2010年刊行予定。

(c) 翻訳

J. A. フレンケル・A. ラジン著、『財政政策と世界経済』、河合正弘監訳、千明誠・村瀬英彰・塩路悦朗・今井晋・杵渕美智子訳、HBJ 出版局 1990年(原題 *Fiscal Policies and the World Economy*, MIT Press, 1987年)

(d) その他

- ワーキング・ペーパー等：“Chinese Exchange Rate Regimes and the Optimal Basket Weights for the Rest of East Asia”, RIETI Discussion Paper 06-E-024, April 2006, <http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/06e024.pdf>.
- ワーキング・ペーパー等：「名目為替パス・スルー率低下のマクロ的含意」、Vu Tuan Khai、竹内紘子との共著、RIETI ディスカッションペーパー、2007年05月、07-J-024.
- ワーキング・ペーパー等：「不確実性の増大と流動性資産需要：動学的一般均衡モデルによる分析」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.09-J-1、2009年1月.
- ワーキング・ペーパー等：「為替レートと原油価格変動のパススルーは変化したか」、内野泰助との共著、日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.09-J-8、2009年11月.
- ワーキング・ペーパー等：「部門間資源配分と「生産性基準」：4つの留意点」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.10-J-4、2010年3月.
- 書評：*The New World Fiscal Order: Implications for Industrialized Nations*, (C. Eugene Steuerle、Masahiro Kawai 編著, The Urban Institute Press, 1996年), 書評公刊先：*Social Science Japan Journal*, 2000年.
- 書評：吉川洋著『現代マクロ経済学』創文社、書評公刊先：『創文』429、2001年.

- 書評：宮尾龍蔵著『マクロ金融政策の時系列分析』日本経済新聞社、書評公刊先：『日本経済研究センター会報』No. 947、2006年9月。
- 報告書：「最適通貨圏理論：最近の展開とEMUへの応用」、『EU統一通貨と世界経済の構造変化（21世紀経済システムと日本）』日本国際問題研究所(外務省委託研究報告)、1999年1月、45-61ページ。
- 報告書：「ヨーロッパ通貨統合と財政政策－「安定・成長協定」をめぐる論点」、『EU統一通貨と世界経済の構造変化（21世紀経済システムと日本）』日本国際問題研究所(外務省委託研究報告)、2000年3月、28-39ページ。
- 報告書：“Welfare implications of the 1995-1998 yen depreciation on Asia”, *EMEAP Exchange Rate Regime Study*, 2001年6月。
- コメント：“Comment” on William R. Easterly “Globalization, Inequality, and Development: The Big Picture”, *Monetary and Economic Studies* Vol. 22, No. S-1, December 2004, 87-90.
- コメント：“Comment” on Maiko Koga “The decline of Japan’s saving rate and demographic effects”, *Japan Economic Review* Vol. 57, No.2, June 2006, 322-323.
- 学会発表：“Aggregate risk in Japanese equity markets”, (旧タイトル”How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?”) , joint with R. Anton Braun, APFA/PACAP/FMA Finance conference (2002年7月14日-17日、東京) 報告。  
<http://www.e-u-tokyo.ac.jp/cirje/research/dp/2003/2003cf250.pdf>.
- 学会発表：“Who Killed the Japanese Money Multiplier? A Micro Data Study of Banks.” Far Eastern Meeting of the Econometric Society (2004年6月30日-7月2日、ソウル) 報告。
- 学会発表：“Shocks and Incomplete Exchange Rate Pass-through in Japan: Evidence from an Open Economy DSGE Model”, Vu Tuan Khai, Hiroko Takeuchi との共著、2009 Far East and South Asia Meeting of the Econometric Society、(2009年8月4日、東京) 報告。

- 学会発表：”Uncertainty shocks and financial intermediation in a dynamic general equilibrium model: a Markovian Jump Linear Quadratic Approach”, European Economic Association Summer Meeting (2009年8月27日、Universitat Pompeu Fabra (バルセロナ) )
- 学会発表(招待)：”Effects of External and Fiscal Policy Shocks in Japan: Evidence from an Open Economy DSGE Model with Partial Exchange Rate Pass-through”, Yonsei Macroeconomics Conference (2010年3月18日、延世大学(ソウル) ) .
- 学会発表：”Projection of Investment and Capital Stock for Asia”, Vu Tuan Khai との共著、Finalization Workshop: Long-term projections of Asian GDP and Trade, Asian Development Bank and the Chinese University of Hong Kong (2010年7月8日、Chinese University of Hong Kong(香港)).
- 研究会報告：”Monetary Shocks and Endogeneity of the Optimum Currency Area Criteria: Reconsidering the European Monetary Unification”, Duke University Macroeconomics Seminar, 2001年3月報告.

## B. 受賞

APFA/PACAP/FMA Finance conference (2002年7月14日－17日)Best Paper Award  
 (対象論文：”How are macroeconomic risks priced in the Japanese asset market?”、  
 R. Anton Braun 氏との共著)

## 6. 学外活動

### (a) 他大学講師等

非常勤講師、横浜国立大学大学院国際社会科学部研究科、2006年度(マクロ経済学1・2)、2007年度(Analysis of Economic Growth)

非常勤講師、横浜国立大学経済学部、2006年度(マクロ経済学)

非常勤講師、東京大学公共政策大学院、2004年度(マクロ経済学、伊藤隆敏氏と共同)

日本銀行「理論研修」講師、1998年－2010年、8月(初級マクロ経済学)

(b) 参加学会および学術活動

Associate Editor, *Regional Science and Urban Economics*

東京経済研究センター (TCER) (代表理事代理)

統計研究会金融班 (副査)

日本経済学会

ヨーロッパ経済学会

計量経済学会 (Econometric society)

(c) レフェリーの経験

Contemporary Economic Policy, Economic Journal, Economica, Empirical Economics, European Economic Review, Hitotsubashi Journal of Economics, International Economic Review, Japan and the World Economy, Japanese Economic Review, Journal of Banking and Finance, Journal of Economic Growth, Journal of Economic Inequality, Journal of Money, Credit, and Banking, Journal of Economic Dynamics and Control, Macroeconomic Dynamics, Oxford Economic Papers, Regional Science and Urban Economics, Southern Economic Journal, エコノミア、経済学論集、経済研究、国民経済雑誌、日本経済研究 他

## 7. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

日本銀行調査統計局アドバイザー、2007年4月-

経済産業研究所、バスケット通貨研究プロジェクト研究委員、2004年12月-

財務省、IMF 研究会委員

### 過去の公的活動：

統計審議会、専門委員、2007年、2008年

内閣府経済社会総合研究所 基準改定課題検討委員会委員、2004年6月-

日本銀行金融研究所客員研究員、2003年10月-2005年10月

財務省「日本経済の分析及び景気回復のシナリオ策定」研究会委員、2004年1月－同3月

日本銀行国際局、EMEAP 為替レートレジーム研究（委託研究）2000年3月－同9月

経済企画庁（内閣府経済社会総合研究所）「経済動向指標の検討と開発」研究プロジェクトメンバー、1999年7月－2002年4月

経済企画庁（内閣府経済社会総合研究所）「マクロ経済研究検討委員会」委員、1999年－2002年

日本国際問題研究所「EU 統一通貨と世界経済の構造変化」研究会委員、1998年4月－2000年3月